

動労千葉

第3回定期大会圧倒的に成功！

日刊 動労千葉

79.12.16 全国版 No. 42

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
鉄電二二五八・九(公衆電話)七二〇七



動労千葉の80年代を闘う運動の基調

大会は、動労千葉結成の理念である「動労の戦闘的伝統を継承し、階級的組合民主主義を再確立する」にふさわしい、同志的かつ民主的議事運営のもと、職場討議に踏えたあらゆる角度からの活発な質疑討論がなされ、激動の80年代を切り開く運動方針を満場一致で確認しました。

その核心の第一は、組織の存亡と動労運動の未来をかけた8ヶ月の組織攻防戦に勝利した実績にふまえ、それ故におそいかかってくる密集せる反動と対決し、弾圧・組織破壊攻撃にもゆるぎない「80年代に通用する自前の労働組合」をつくるため更なる飛躍をかけて奮闘する。

第二に、今日の右翼的労働戦線統一問題、総評労働運動の右より傾斜と対決し、動労大改革への闘いを強化し全ゆる困難をのりこえ分離し自立し、でも真に闘わんとしている全国全産別の戦闘的拠点を糾合する取組みを展開する。

第三に、80年代日本階級闘争の天王山としてある三里塚闘争の勝敗は、三里塚農民の生命と生活をかけた決戦であると同時に、労働運動、全国住民運動に決定的に影響を及ぼすものである。われわれは労働連帯を一層強め、「反合・三里塚ジェット闘争」の路線を明確にして闘いを強化する。

第四に、「35万人体制攻撃は、徹底した労働強化、要員削減と民間委託化、それを通しての国鉄労働運動破壊Ⅱ産業報国会化への攻撃である。国労・動労中央の裏切りをうち破って、「55・3」を軸にすえ全国全線ストを実現し、80春闘と結合した前進を勝ちとってゆく。その先制的攻撃的な闘いとして、年末から3月にかけて「処分粉碎」「新採大中獲得」「反合運動保安」の闘いを重点に

全国の動労組合員のみならず、わが国鉄千葉動力車労働組合は12月11・12日両日、延べ四〇〇名の組合員を集めて、千倉町中央公民館において、第三回定期大会を開催し、三里塚・ジェット闘争、国鉄35万人体制粉碎を中心とする80年代に向けた確固たる運動方針と闘争体制を打ちたてました。大会討論は、動労「本部」反動暴力集団による暴力的組織破壊攻撃と対決し、文字通り血みどろ・汗みどろの8ヶ月間の激闘をたたかひぬき、10・22〜11・1の二波にわたるストライキ減産闘争を敢行した自信と確信にみち溢れた発言が自由闊達に出されました。そして右翼的労働戦線統一を弾劾し、80年代日本労働運動の戦闘的再生Ⅱ動労大改革へ向かっていかなる反動をも乗り越え、一四〇〇名組合員・家族が一丸となって闘い抜く決意を新たにしました。

強力な第三波闘争を準備してゆく。以上であります。

当局に屈服を深める「本部」

こうしたわが動労千葉の前進に比して「本部」反動集団の現状はどうでしょうか。「貨物安定宣言」をもって反合闘争の原則をなげ棄てて久しい彼らは、いまや完全に鉄労以下の運動へ墮落したといえます。それは青森大会以来の動労の原点であり伝統である「反合Ⅱ運輸保安闘争の原則」を今や完全に否定し過日発生した武蔵野線事故に對して「本部」八級委員長は高木総裁と仲良く機関車に添乗し「労使が共通の認識をもって事故問題にあたるために」これが「初めて実現した」「大きな成果」だとまでいいだすしつです。いわゆる「労使共通の認識」たるや「動労の姿勢は乗務員をはじめ全組合員が運輸事故を起こさないよう業務上の努力をすることだ」(動力車新聞第一三〇九号)とはじめて、きっぱりと言いつき切り事故の激発は乗務員Ⅱ労働者に責任があると当局の代弁をするまでにはいたっているではありませんか。

全国の動労組合員の皆さん。全国の動力車職場の仲間が、長い間、苦闘して築き上げてきた反合Ⅱ運輸保安闘争の成果と原則は、今、全面的に崩され「労使アベックの先端をゆく動労」へと意図的に変質させられようとしています。このような「本部」反動集団に動労運動の「指導」をあずけて、これ以上の私物化を許してはいけません。反動分子の自己保身のために労働者の利益を売り渡させてはなりません。今こそ動労大改革をかちとり動労の戦闘的伝統を復権させ、「35万人体制」攻撃と対決し80年代の激動を勝ち抜ける労働運動を築き上げようではありませんか。